

ひなたぼっこ通信

2019年
11月号

「秋に想う」一階

原村をはじめ、

諏訪地方の山々は

紅葉の真っ盛り。

利用者の皆様も、

もみじ狩りに行か

れるのです。おい

しいお食事と共に

・・・

もみじ狩りと言いますと、私が初めて原村を訪れた時、御射山という交差点を通りました。

ここはその昔、御狩場だったところ。原野だったでしょう。今では日本一のセロリ畑が続いています。もう一か所、茅野の奥蓼科にある御射鹿池。

ここも御狩場だったのではないのでしょうか。紅葉が水面に映る姿は素晴らしいビューポイント。東山魁夷が御射鹿池をモデルにした「緑響く」の白馬の絵も幻想的で心に染みます。もみじ狩りには最高の場所です。

春の新緑の時も素晴らしいです。いつ行っても心が洗われます。是非一度行ってみて下さい。千峰に囲まれた原村は紅葉をはじめ黄金色に輝く稲穂など、実りの多い秋です。「日本一美しい村連合会」の原村に住んでいる事を誇りに思っています。



これからは風邪・インフルエンザと体に悪い寒さが到来します。体を大切にいたしましょう。

(M・K)

「雨の晴れ間のお話」事務室

ある日、黒部溪谷の「トロツ」電車に乗りました。諏訪を出る時は雨。始発駅宇奈月を出る頃には雨もあがり、峡谷の景色もバッチリ。前日カッパの試着もして来たのに、カッパも長靴も出番なくすみましました。峡谷のそそり立つ山肌。黒部川のコバルト色の水面など楽しんで宇奈月駅へ。帰りのバスに乗る頃には大粒の雨が降り出しました。トロツ電車の晴れ間には、晴れ男と晴れ女の効果があつたのです。この話は信じるも信じないも貴方の勝手。私はもちろん信じます。(M・K)

「秋のお祭り」

十月五日、宅幼老所とグループホーム合同でひなたぼっこ祭りが開催されました。

今年はコーラスの方による素晴らしい歌声を聞き、尺八の音色に酔いしれ、そして、大正琴の演奏に合わせて歌を歌いました。さらに、宅幼老所の職員とご利用者様が一緒に、お祭りに向けて練習してきた「武田節」と「不識庵幾三を撃つ」の図に題す」を吟じました。さらにさらに、出し物コーナーの最後として、日々の体操の時間に行っている「諏訪郡歌体操」を行いました。利用者の皆様は、昔か

ら歌っていた歌に合わせて身体を動かし、頭も体もリフレッシュしました。

お祭りの「しめ」として、宅幼老所のお祭りでは恒例となっている「かぼちゃの重さ当て」と「お菓子の詰め放題」を行いました。例年は大きなかぼちゃを準備していましたが、今年は持てる大きさのかぼちゃを準備し、お一人ずつ持っていただき重さを予想して頂きました。ピタリ賞は出ませんでした。さすがに皆さん勘が良く六名の方が「惜しかったで賞」でした。六名の方々にはスタッフから景品をお渡しさせていただきました。

お菓子の詰め放題は職員とジャンケンし、勝つ方は大きいコップ、負けた方は小さいコップに、それぞれお菓子を詰め放題するというものです。皆さん一番いい笑顔で参加されていました。お昼はお祭り弁当を用意し、さらにお祭り気分が盛り上がりしました。(M)

わー！
おいしそう！



グループホーム

「百歳のお祝い」一階グループホームには、今年十月九日で満百歳を迎えられたS様がいらっしやいます。

日頃から食も進み、お元気な方です。日常の生活、秋祭り、催しへの見学などで撮ってあったスナップ写真で、小さなアルバムを作ろうと計画し、理事長には、お祝いのメッセージを依頼しました。そして、スタッフの皆からも、一言ずつコメントが寄せられ、一冊の素敵な「百歳記念アルバム」ができました。

当日のお祝い席では、大きなショートケーキとお花をお渡しし、他の利用者様全員で記念写真を撮りました。

秋祭りの時には、顔が埋まる程の綿菓子にかぶりつきになって、スタッフがその場面の写真を撮り、ホールに飾ってあります。S様は、はにかみながらいつもその写真を眺めていらっしやいます。このように、甘い物が大好きなS様は、今回も大きなケーキをペロリと平らげられました。

他の利用者様も、この元気に刺激され、これからもしっかりと食べて、お元気で過ごして下さる様、スタッフ一同は願っています。



「ひなたぼっこ秋祭り」二階

10月5日、宅老所とグループホーム合同で、ひなたぼっこ秋祭りが開催されました。私は、焼きそばを焼く係で外で焼いていました。それなので、歌などの催し物は、入居者様と一緒に見られなかったのです。でも、施設内からにぎやかな音が聞こえてはいました。利用者様に、あとで感想を聞いてみると、「凄く楽しかった。」などと笑顔で話してくださいました。それをお聞きして、楽しんでいただけてよかったですと思います。

Y様は、かぼちゃの重さ当てで一番重さが近かったそつで、「バナナ二本もらったー」と嬉しそうに話して下さいました。

「台風十九号被災ボランティア」

私は、この台風で甚大な被害を受けた篠ノ井にある、福祉キノコ生産工場に、ボランティアに行ってきました。写真が、被災直後のエノキダケの工場の様子です。泥水が分かりますか。



泥水に浸かったエノキダケを廃棄するための作業です。

私は、エノキダケを栽培するための培養土をかくはんする、巨大なタンクの中に入って、作業をさせていただきました。トウモロコシの芯などを粉砕してできた培養土が泥水に浸かったために、全て廃棄しなくてははいけません。培養土は水を含んで重く、そして発酵が進んで耐えようもなく臭くなっていました。シャベルの重いこと。

ところで、このエノキ工場は従業員の半数余りが障害者です。主に知的障害の方ですが、そのことについて、代表の清水さんとお話する機会がありました。清水さん曰く「キノコの栽培は、他の農業と異なり、季節に左右されず、作業も1年を通じ同じものです。それが、彼らに分りやすいと、私達は気づきました。」と。そして、「ボランティアの方が来てくださると、応援されているんだと、彼らも元気になります。」と。

そして、別れ際には「この工場は、彼らと地域にとって必要な工場です。絶対に潰すわけにはいきません。再建します」と述べられました。それらの言葉に、私は応援に行っている、逆に大事なことを教えられる気がして、帰路につきました。

発行 社会福祉法人ひなたぼっこ

理事長 森 正明

〒399-0211

富士見町富士見11650-1

TEL 0266-61-2335

FAX 0266-61-2336

次回無料塾・フードバンク

11/17(日) 10時~12時

12月は 12/15(日) //